



## きょうちくとう

夾竹桃 | Zikei Hospital





- |2|2020年 新年のご挨拶
- |3|メンタルヘルス講座 「現代の不安の理解とその介入」 一不安をいかに共有して、安全に生きていくか一
- |4|〈部門紹介〉薬局
- |6|第9回 慈圭病院院内学会
- |7| ZIKEI NEWS こころの市民講座 【シリーズ依存症①】ギャンブル障害





### 2020年 新年のご挨拶

院長武田俊彦





### 夏祭りの慈圭病院

2020年が始まりました。このきょうちくとうを手にとって見ていただいている今は、何月何日でしょうか。実は、この原稿は2019年11月28日に書いております。今回のきょうちくとうの巻頭では、さらに遡ること3ヶ月、2019年8月27日に行われました慈圭夏祭りについてお話しさせていただきます。

2019年の夏祭りには、雨にもかかわらず約900名の市民の皆さまが参加されました。年々参加していただける人数が増えています。その中には、当事者の皆さまを遙かに超える数の近所のちびっことそのご家族の皆さまの参加がありました。これが私たち病院関係者としてはとても嬉しいことでした。

現在、日本を含む先進国では、2人に1人が人生のある時点において精神障害を経験すると言われています。我が国でも厚生労働省が2011年に、それまでのがん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病の4大疾病に、新たに精神疾患を加えて5大疾病としてその治療と予防対策に力を入れています。そして5大疾病の中で最も罹患者数が多いのが精神疾患なのです。

慈圭病院は私立の精神科病院ですが、公益財団法人であり、病院事業に非常に高い公益性が求められています。ですから、そこで働く私たちには、精神科医療を必要としている人にあまねくそのサービスを届ける義務があると考えています。そのために現在慈圭病院は、思春期から認知症に至るまで幅広い精神科専門医療、精神科救急医療、24時間の訪問医療、精神科リハビリテーションなどたくさんの事業を行っています。それとは別に、そのような慈圭病院をまず知っていただくことがとても重要



であると考えています。知っていただくには、やはり 病院へ来ていただいて、見て、聞いて、体験して いただくことが一番です。祭りはそのような趣旨で 始めました。その日に向けて職員はいろいろ準備 をして皆さまをお待ちします。慈圭病院での夏祭 り体験から「夏祭りの慈圭病院」という記憶を残していただけたらとても嬉しいです。

## メンタルヘルス講座 48

現

### ●不安とは何か

不安とは、その対象がはっきりとしない漠然とした恐れの感情で「安心・安全が確保されていない」ということを知らせてくれる大切な感情です。 人は不安を感じることで安全を確認したり、状況に応じた対処をすることができます。

### ●不安は形を変えて表現される

すべての人が不安を不安として表現・対処できるわけではなく、本当は不安なのになかなか自分でも気づかない場合もあります。例えば自分の不安が他者に向き、過干渉や過保護になる、イライラして相手にあたる、不安を打ち消すために確認行為(何度も手を洗う、鍵を何度もかけ直すなど)が多くなる、決断が遅くなる、原因不明の身体症状(めまい・頭痛など)が出現する、身体の不調を過度に心配する、不安に直面しないようにアルコールや薬を乱用する、場合によってはひきこもってしまうといった場合もあります。

### ●不安障害とは何か

不安が過度になって治療を必要とする様々な症状を呈するまでになった 状態を不安障害と呼びます。通常の不安と病的な不安の違いは基本的に は延長線上にあり、その程度が強くなったものが病的な不安です。不安 障害(=病的な不安)は、自分自身でその不安をコントロールできない ことも特徴の一つです。その種類にはパニック障害、社交不安障害、強迫 性障害、全般性不安障害、心的外傷後ストレス障害(PTSD)などがあり ます。

### ●不安障害になると悪循環が起きる ……

不安障害になると、不安を感じるような場所や状況を避ける(=回避)ようになります。回避によって日常生活がうまく送れなくなり、必要なことができなくなります。

### ●なぜ不安障害になるのか

原因についてはよく分かっていません。その人の生まれながらの特性や生育環境、遺伝が関係するといった説もありますし、不安に陥る「きっかけ」が明らかな場合もあります。また、現代は家族や地域との関係が希薄となり、経済は不況となり、情報化社会・インターネットの普及でコミュニケーションはバーチャルなものに変化しています。そのような社会では価値観は持ちづらくなり、行く先も不透明となり、現代は不安の時代とも言えます。

### ●不安障害の治療と支援

各種治療法はありますが、治療は専門家に任せましょう。周囲の人は「支え役」として気持ちを聞き、不安を否定せずに支援していくことが大切です。回復には安心できる人に、安全な場所で支援されているといった感覚が必要です。



# 一不安をいかに共有して、安全に生きていくか一八の不安の理解とその介入



病棟医長 鷲田健二 [2019年10月5日]



薬局は、現在10名の薬剤師で、患者さまに安全に安心してお薬をのんでいただけ るように「調剤」「医薬品情報の収集と提供」「病棟活動」を行っています。



薬局の理念

### 正確・迅速な調剤とやさしい応対

### 調剤

外来では1日平均150名の患者さまが受診されています。薬局には3台の全自動 錠剤分包機を設置しており1回に飲む薬を一包化することにより飲みやすくし、 患者さまにより早くお薬を提供できるようにしています。電子カルテと調剤シス テムを連携させて効率化をはかり、薬の種類、量、相互作用、検査結果等を確認 しながら調剤を行っています。必要があれば医師に問い合わせを行っています。 また粉薬には散剤監査システムを導入することで、よりミスのない正確で安全な 調剤を目指しています。







### 患者さまに安全に安心して お薬を飲んでいただけるように

投薬窓口ではお薬の内容・変更点 等を説明して患者さまと一緒に確認 しています。薬の説明書のお渡しや、 お薬手帳で他の医療機関で渡された 薬との重複や飲み合わせのチェック を行って、患者さまに安心して飲ん でいただけるようにこころがけてい ます。

入院では11病棟、約500名の患者 さまがいらっしゃいます。入院患者 さまの内服薬、注射薬、外用薬等を 調剤しています。





### 医薬品情報の 収集と提供

厚生労働省や製薬会社等から得ら れる情報を収集して、院内スタッフ や患者さまに提供しています。また お薬に関しての質問があれば調べて お答えしています。

### 病棟活動

病棟では、医師、看護師、精神保 健福祉士、作業療法士、介護福祉士 等と共にカンファレンスに参加して います。また、入院患者さまには必 要に応じてベッドサイドに赴き服薬 指導をしています。精神疾患では患 者さま自身が薬の作用を理解し、自 らの意思でお薬を飲み続けることが 重要ですので、退院後も無理なく続け られるよう、お手伝いをしています。



### 第9回 慈圭病院院内学会が 開催されました



令和最初の慈圭病院院内学会が11月22日、27日、28日の3日間開催されました。今年は入院数増加に伴い、病床数の確保、退院移行支援など職員の連携を密にして対応しなければならない場面が増えました。病棟から病棟へ、病院から地域へ各部署が連携し、患者さまが幸せに退院するために、病院全体で協力して取り組まなければなりません。そこで院内学会実行委員会ではつながりを意識した「つなぐ」をテーマに掲げ、企画運営を行いました。

### 11月22日

1日目は精神医学セミナーの 一環として一般財団法人日本心 理研修センター理事長の村瀬嘉 代子先生をお招きし、講演をし ていただきました。外部からの



受講者も含め200人弱の方が聴講されました。先生のお話の中で、対象者と出会い、関わりを持ち続け、徐々に心を開いたエピソードにはとても興味深く聞き入りました。



### 11月27日

2日目は口演発表でした。今年は過去最高の10題出題していただき、様々な事例を通して発表を行い、自分自身やチームのケアを見直す良い機会となりました。今後もお互い切磋琢磨し、より良いケアを目指していきたいと思いました。



### 11月28日

3日目は学会恒例のムービー(動画)の上映と、新たな試みとして、〈つろぎカフェと称したグループワーク(ワールドカフェ形式)を行いました。全体集合写真は多数の職員が芝生広場に集合して撮影においては実行委員主導で全部署に撮影協力を依頼し撮影に臨みました。どの部署も快く撮影に応じていただき、各部署趣向を凝らし、チームー丸となって職場空間を表現していただきました。チームワークの良さが映し出された時は心を打たれ感動しました。〈つろぎカフェではグループワークということで当初、参加者の戸惑いがありましたが、「慈圭病院の良いところ」をテーマに各部署和気あいあいと終始〈つろいだ中で話し合いを終えました。

このワールドカフェの趣旨は他花受粉。慈圭病院の良いところを色々な角度から話し合い、良いところをそれぞれの部署に持ち帰り、花を咲かせられたら良いと思います。



これからも各部署がつながり続け、 一致団結し、病院の発展のために 頑張りたいと思います。

慈圭病院院内学会実行委員会

日時

数値

となっております。

これは、

簡単にギャン

**2020.2.16**(B) 13:00~15:00 (受付開始 12:30~)

会場

ュアリティまきび 2階 孔雀の間

岡山市北区下石井2-6-41 TEL(086)232-0511

頃より

治療を行う施設が増えております。

の病気と認めら

れました。 界保健機関

日本でも20

0

WHO

)に精神

る可能性があると懸念され

ております。

きる法律ができ、

今後病気にかかる

人が

增

Ź

年に世

入場無料 定員 200名 (要事前申込) 対象者:一般市民

● 申し込み方法

郵便番号、住所、氏名、電話番号、参加人数を明記の上、 FAX、往復はがきまたはメールでお申し込みください。 FAX 086-262-4448 E-mail skouza@zikei.or.jp

※定員になり次第締め切りとさせていただきます。※お送り頂いた個人情報は本件以外には使用いたしません。

プログラム

program

13:00~14:00

快適な朝の目醒めを るために

武田 俊彦

公益財団法人慈圭会慈圭病院 院長

講演Ⅱ 14:00~15:00

認知症にやさし 会をつくるに

石津 秀樹 講師

年代に研究によって治療可能であることがわか

人間とみなされていました。

1 9 7

0

内にカジノ

を作ることが

で

ල

公益財団法人慈<mark>圭会慈圭病院</mark> 副院長

どの物質使用障害とギャンブル障害などの行動 れを繰り返してしまう、 ことができない状態です。 生活の障害や苦痛があるにもかかわらず、 機能障害または苦痛を引き起る 6 傍目ではわかりにくく、 かつ 0 から %と推計されており 国 同 簡単に言うと、 反復性の問題賭博行動」と定義され とわかっているにもかかわらず の診断基準(1)で「臨 ル障害( 病気のカテゴリーに 0) 全国 (病的賭博とも呼ばれます。) 調 査では、 ギャンブル ということになり 現在はアルコー 諸外国の中では 自分自身がやめ 床的 生涯 入っています。 (賭博) こすに至る持 に意味のあ 有病率 やめる )によっ ル

### シリ ズ依存症

です。昔からギャンブルで身持ちを崩してしま た方は多くおられ、 その一つが今回紹介するギャンブル 病気に見えにくい 意思が弱いとか 精神科の病気が 精神 障 あ

> 本特 ブル

有の要素が影

る可能性があります。

さら

IR法案とい

う日

本国

見病気に見えにくい精神科の病気

それ ます。 木 薬物療法も有効であるとも言われております。 神状態の 感じている場合が多いと言われています めに集まっている会)への参加も有効とさ 療プログラムが開発されています。 医による面 とが多いように思います。そして、そういった ギャンブル障害も同じ精神状態を抱えているこ 同じ ブラーズ・アノニマス(GA)という自助グル 人を信頼することが苦手だったり、 障 治 害が のように 療は、 0) 病 物質使用障害を抱える患者さまたち 加えて、 際には、 気にかかり 起こることも 治療も重要です。 接、 般 わかりにく 集団療法などがあり、 あ 的には精神療法という精 度ご相談ください る種 その病気から回 の薬の副作用でギャンブ 知られていま い病気もありま 海外ではある種 他にもギャン 孤 復 新たに 独 が するた す。 れ  $\widehat{2}$ 感 神 精 0) を 治 to

をすることができる日 響してい

(1)米国精神医学会(APA): DSM-5. Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders, 5th ed. 2013 参考文献 (2)小林桜児: 人を信じられない病. 信頼障害としてのアディクション. 日本評論社.東京. 2016.

2020

### 外来担当医師

完全予約制

診療時間

初診/受付時間

専門外来

9:00~15:00

8:30~11:00

●アルコール ●もの忘れ ●青年期

●ペインクリニック(疼痛) ●セカンドオピニオン

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
再診	据井 茂男 岡田 志保 田中 増郎 中村 敦俊	石津 秀樹 難波 多鶴子 武田 俊彦 池田 智香子 赤穂 千尋 青木 省三	堀井 茂男 山内 裕子 吉村 優作 木谷 玲	武田 俊彦 石津 秀樹 松下 貴紀 北野 絵莉子 山本 和明	岡 沢郎 鷲田 健二 蜂谷 知彦 山下 理英子	定期の診察はありません
年 前 <b>連</b>	(アルコール初診) 堀井 茂男 田中 増郎	(アルコール初診) 山下 理英子				はありませ
専 門 外 来 **	(ペインクリニック) 石津 友子	(アルコール再診) 堀井 茂男	(もの忘れ) 石津 秀樹	(青年期) 担当医	(アルコール再診) 堀井 茂男 田中 増郎 吉村 優作 山下 理英子	λ

お問い合わせ

TEL (086) 262-1191 受付時間 8:30~17:30



### 慈圭病院の理念

### わが子でも安心して任すことのできる 精神科病院

創立以来、職員ひとりひとりが、患者さまとそのご家族の 信頼にたる病院であるかを問い続けています。

### 五大基本原則

### 慈愛の医療

ひとりひとりの患者さまに、慈愛と尊敬のこころをもって 快適な医療を提供します。

### 最先端の精神科医療

急性期医療からリハビリテーション、地域医療まで、良質 で、最先端の精神科医療を実践します。

### | 最高水準の医療倫理

ヒューマニズムに根ざした至高の医療倫理を保ち、安全 で安心、納得のいく医療を実行します。

### 積極的な地域貢献

地域との連携を密接にし、精神科基幹病院としての役割 をはたすとともに、こころの病の理解のための教育、啓発 活動を積極的に行います。

### | チャレンジ精神

私たち病院スタッフは、常にチャレンジ精神を忘れず、和 の力を結集し、さらなる挑戦、実践を行います。

### 病院へのアクセス

JR岡山駅より南へ約8km(浦安総合公園近く)

### 車で

広島方面から

国道2号線「青江」で側道へ、「豊成」

交差点を南へ約10分

国道2号線「福富」で側道へ、「豊成」 大阪方面から

交差点を南へ約10分

### バスで

岡電バス

JR岡山駅前より「浦安体育館・岡南 飛行場行」に乗車、「慈圭病院」下車 (岡山駅より約30分)





